

- 火山活動が活発な諏訪之瀬島では、火山噴火に伴う火山灰の堆積、その後の降雨による降灰後の土石流発生が懸念される。
- このため、国土交通省では、2021年から定期的に鹿児島大学地頭菌教授、鹿児島県及び十島村と合同で現地調査を実施している。今回、2024/3/15に地頭菌教授、鹿児島県及び十島村と共同で実施。
- 集落上流の斜面では厚い火山灰の堆積は認められず、浸透能調査では1年前の調査結果と同等の浸透能であり、**少ない雨では土石流の発生の可能性は低い**ことが確認された。(2024/3/15)

## 【諏訪之瀬島上空からの降灰調査】

- 集落上流域に厚い火山灰の堆積は見られなかった (写真D)
- aは火山灰堆積状況および浸透能試験地点



写真の撮影地点



2021/11/14の様子



2022/2/28の様子 (噴火が発生している)



諏訪之瀬島の降灰状況 (2024年3月15日)

- 集落上流域に厚い火山灰の堆積は見られない (D)
- aは火山灰堆積状況および浸透能試験地点

## 【諏訪之瀬島での地上調査】

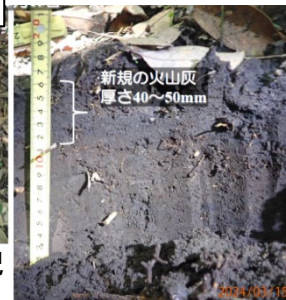
- 火山灰が4~5cm程度堆積
- 浸透能調査では1年前の調査結果と同等の浸透能であり、少ない雨では土石流の発生の可能性は低いことが確認された。



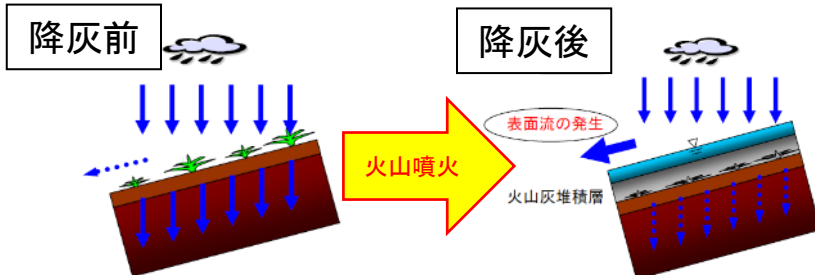
調査実施状況 (2024/3/15)



火山灰の堆積状況 (2024/3/15)



## 【降灰後の土石流の発生原理】



雨水はほとんど浸透し、表面流は発生しにくい。

浸透能が低下し、表面流が多量に発生するようになる。